

(議案第1号)

平成23年度事業報告について

| 項 目 | 内 容 |
|------------------|---|
| 1 世界遺産登録への取り組み状況 | <p>(1) 松本市は平成18年11月30日、長野県と共同で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する世界遺産登録の国内候補を載せた「暫定一覧表(リスト)」に、国宝松本城を推薦する提案書を、文化庁に提出した。</p> <p>(2) その後、文化庁の審査で「継続審議案件」となり、平成19年12月再提案書と検討状況報告書を提出し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」で研究を進めることを報告し、平成20年3月、世界文化遺産特別委員会ワーキンググループのヒアリングを受けた。</p> <p>(3) また、平成20年1月、2月には、松本市長と彦根市長・犬山市長の間で今後「近世城郭群」で研究を進めることの合意が得られ、3月に事務レベル会議を実施した。</p> <p>(4) 平成20年9月には、文化庁文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会から「カテゴリーI b」に該当という審議結果を受けた。</p> <p>(5) 彦根市、犬山市と国宝四城近世城郭群での研究を進めるとともに、文化庁からの課題である「城郭及び城下町等の世界的視野での普遍的価値」について研究を進めてきた。</p> |
| 2 松本城関係文化財の保護活動 | <p>(1) 南・西外堀復元と内環状北線の一体的整備に向けた地元説明会の開催</p> <p>(2) 松本城下町、松本藩に関係した文化財の指定 (長野県宝 1件－旧念来寺鐘楼)</p> <p>(3) 市重要有形民俗文化財「松本城下町の舞台」の</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>修復事業に対する補助金の交付</p> <p>(4) 城下町文化財の「登録文化財」への支援</p> <p>(5) 「まるごと博物館」構想の推進</p> |
| <p>3 啓発・PR活動</p> | <p>(1) 松本城検定クイズの実施 市内小学校で国宝松本城についてのクイズ形式による授業を行い、松本城への興味を持つきっかけづくりを行った。</p> <p>10月6日 波田小学校3年生 168名 10月11日 山辺小学校3年生 70名 10月13日 中川小学校4年生 7名 10月20日 清水小学校3年生 35名 で実施し、計4校280名の小学生が参加した。</p> <p>(2) 松本城・旧開智学校写生大会、展覧会への協賛 松本市教育委員会などの主催による写生大会は10月2日に実施。 展覧会は平成24年1月19日から24日まで、応募作品527点を「井上百貨店」で展示した。</p> <p>(3) 国宝彦根城見学会の実施 国宝4城の連携強化と松本城以外の各城の学習を深めるため、昨年の姫路城に続き彦根城を11月25日に訪問。21名の参加者が彦根市教育委員会谷口文化財部長の案内で、天守・庭園・足輕屋敷などを見学した。</p> <p>(4) 国宝3城高さ比べパンフレットの追加制作 昨年制作した松本・彦根・犬山の国宝3城の高さを題材にした子供向けの折りたたみ形式のパンフレットの評判が良く、増刷を実施した。</p> <p>(5) 松本城・旧開智学校絵画展優秀作品展示会主催 1月に実施した展覧会の中から、特選・金賞・</p> |

| | |
|-----------------------------|---|
| | <p>銀賞・銅賞に選ばれた32点を「八十二銀行松本営業部ギャラリー（大名町）」で、3月2日から4月6日まで展示した。</p> <p>(6) 稲葉信子先生（筑波大学大学院教授）の講演会を開催 5月26日に「世界遺産登録の最新動向についてー日本からの登録の可能性ー」と題し、世界遺産登録の現状を学ぶ講演会を開催した。今後の活動に関する貴重な助言をいただいた。犬山市・彦根市からも参加。</p> |
| <p>4 世界遺産保護、文化財保護活動との協力</p> | <p>(1) ICOMOS（国際記念物遺跡会議）へ会員としての協力</p> <p>(2) 日本ユネスコ協会連盟の運動への協力</p> |
| <p>5 世界遺産にかかわる調査、研究活動</p> | <p>(1) 国宝四城近世城郭群研究会担当者会議を3回実施し、2012年3月には、(仮称) 国宝四城世界遺産登録推進会議準備会を設立した。同時に、記念講演会を開催し、調査研究及び情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回研究会 5月12日（松本市） ・第12回研究会 10月14日（犬山市） ・第13回研究会 2月 8日（彦根市） ・第1回 準備会 3月22日（松本市） <p>平成21年度から ICOMOS 等に関わる専門家を招いて研究会を引き続き実施。</p> <p>(2) ICOMOS、UNESCO（国連教育科学文化機関）等関係団体の動向調査、情報収集</p> <p>ア 2011年（平成23年）6月19日～29日パリのユネスコ本部において第35回世界遺産委員会が開催された。新たに25件の遺産（文化遺産21、自然遺産3、複合遺産1）が、世界遺</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>産リストに登録され、世界遺産の数は936件となった。(自然遺産183件、文化遺産725件、複合遺産28件)。日本からは、「小笠原諸島」、「平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」の2件が新たに登録された。</p> <p>イ 2011年9月、世界遺産条約関係省庁連絡会議において、「富士山」及び「武家の古都・鎌倉」が世界遺産に推薦されることが決定した。 日本政府は、2012年2月1日までに、UNESCO 世界遺産センターへ推薦書を提出し、2013年の世界遺産委員会での審議を目指す予定。</p> <p>ウ 近年、世界遺産の新規記載数を極力抑制し、専門的な評価を厳格に行う傾向にあり、新規記載は、厳しくなっている。</p> <p>エ 世界遺産条約40周年記念事業 2012年は世界遺産条約採択40周年にあたるため、世界各地で世界遺産条約40周年記念事業が開催される。日本では11月に京都で記念事業が行われることになった。</p> <p>(3) 国内他地域の動向、情報収集</p> <p>ア 「国立西洋美術館・本館」(東京都) フランスをはじめ6か国で記載を目指す、「ル・コルビジェの建築と都市計画」には、22の構成遺産の中に国立西洋美術館・本館(東京都)が含まれ、第33回世界遺産委員会でその基本的意義は認められたものの20世紀の巨匠建築家により大陸、地域を跨る構成遺産群として、顕著な普遍的価値を証明することや共同管理計画の必要性などの具体的な課題を付され登録に至らず「情報照会(※1)」の決議がなされた。 その決議を踏まえ、「ル・コルビジェの建築作</p> |
|--|--|

品「近代建築運動への顕著な貢献」に変更し、構成遺産を3遺産減らし19資産とし、2011年2月に追加情報を提出した。同年5月ICMOSにより「不記載」(※2)の勧告が行われ、6月の世界遺産委員会で「記載延期」(※3)と決議された。

- (※1) 情報照会・・・世界遺産としての顕著な普遍的な価値があることは、証明されているが、補足情報が必要。
- (※2) 不記載・・・記載にふさわしくないもの。
- (※3) 記載延期・・・より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの。

イ 「善光寺と門前町」

提案書作成にあたり専門分野の有識者によるワーキンググループを編成し、信仰資産では他と類似するため、信仰を核とした寺院・宿坊群・仲見世・門前を有する「生きている善光寺門前町」というコンセプトに集約し、平成19年12月、資産の名称を「善光寺と門前町」に変更して再提案書と検討状況報告書を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

○指摘課題への対応及び動向

「世界遺産登録を進める会」(事務局：商工会議所)と市教委で、詳細研究等を進めている。

当面、大勧進、大本願、宿坊群の国の重要伝統的建造物群(重伝建)保存地区選定に向けて取り組む予定。

推進役を進める会と市教委では、今後の調査研究の取り組みについて、「近世寺社と門前町関連の文化遺産」の観点から学術的な詳細研究を進めていく予定。また、重伝建保存地区選定に向けては、今後、地域住民の合意形成を図った上で、文化庁と協議する予定。

現在の課題としては、門前町の範囲をどのよ

うに定義するのか、また門前町における構成資産がどの程度あるのかを明確にする必要がある。さらに、世界的な視点からみた門前町の独自性、代表性など普遍的な価値を比較研究し、その価値の向上に向けた維持保全計画を定める必要がある。

ウ 「妻籠宿・馬籠宿と中山道」

平成19年3月南木曾町と中津川市は、両市町にまたがる資産構成内容を検討し、歴史的人物や文学作品等も視野に入れ、共同で再提案することに合意し、同年12月資産の名称を「妻籠宿・馬籠宿と中山道ー『夜明け前』の世界ー」に変更し両県と共同で再提案書等を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

○指摘課題への対応及び動向

木曾郡の全町村、教育委員会で構成する「木曾地区遺産保護活用推進協議会」を設立し、今後の対応を検討する。平成22年2月に講演会「世界遺産の基本的な方向について」を開催し、地域住民の意識高揚を図った。平成23年4月に中津川市と今後の取り組みについて協議を行い、市内峠地区で重伝建を目指す動きがあり、南木曾町との共通認識が深まり行動連携に向け良好な関係を構築してきている。

エ 「岡谷の製糸遺産」

平成19年9月、岡谷市は「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」を新規に文化庁へ提案書を提出した。結果は、カテゴリーIIに該当

○指摘課題への対応及び動向

市教委内部で、構成資産の見直しと今後の対応を検討中。近代化遺産及び製糸資産を活用し

た街づくりをすすめるための事業を継続実施している。姉妹都市である富岡市と交流を深めており、市が所有するフランス式繰糸機（そうしき）を富岡市に寄託するなど新たな相互連携方法や交流事業を具体化している。今後、富岡市とガイドの交流等の市民レベルの活動を企画する予定。

※岡谷市教育委員会蚕糸博物館の学芸員を1名、23年度から富岡市へ通年派遣

オ 「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」

平成20年4月、伊那市において推進協議会設立後初めての総会を開催し、世界自然遺産登録に向けた第一歩として、ジオパーク（※1）への取り組みを推進していくことを決定した。（長野、山梨、静岡3県10市町村で構成）

同年7月に南アルプス中央構造地帯（長野県側）が、日本ジオパークに認定され、教育や観光の目玉となっている。

また、同時に、平成15年・16年に実施した世界自然遺産登録に向けての学術調査結果をもとに、協議会は、「ユネスコエコパーク」（※2）の登録も目指すこととなった。

なお、世界自然遺産（静岡市）、ジオパーク（伊那市）、エコパーク（南アルプス市）がそれぞれ事務局を担当している。

（※1）世界ジオパークとは、2004年にUNESCOの支援で設立され、世界ジオパークネットワークが認定するジオ（地球）に関わる様々な地質遺産、（例えば、地層、岩石、地形、火山、断層など）を含む自然豊かな公園。地球活動に関わる遺産を保護し研究に活用するとともに、科学教育等の場として、またジオツーリズムをはじめとする新たな観光資源として、地域の振興・活性化を図るのが目的。欧州や中国など27カ国で、88カ所が認定されている。日本には島原半島や山

| | |
|--|---|
| | <p>陰海岸など 5 カ所がある。</p> <p>(※2) エコパークとは、生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年(昭和51年)に UNESCO が開始した制度。世界遺産が「手つかずの自然を守る」ことが原則なのに対し、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)」が目的。世界の登録数は、114 カ国 580 地域あり、国内では、屋久島、志賀高原、白山、大台ヶ原・大峰山の 4 地域が 1980 年に指定されている</p> <p>カ 「信州黒耀石原産地遺跡群の複合遺産登録にむけた取組み」・・・(新規)</p> <p>信州黒耀石原産地遺跡群は霧ヶ峰から北八ヶ岳の一带にあり、縄文時代ここで採掘された黒耀石が関西から北東北の広範囲に流通していた。未指定の採掘遺跡、石器制作遺跡、石器流通の中継遺跡を含め、現在一か所が史跡指定されている。将来に世界遺産暫定リスト公募に向け活動が始まっている。また、長和町では、国際ワークショップを実施して海外にも知られるようになっている。</p> |
|--|---|